

TOPIC | 1 | 建材・設備メーカーが相次いで値上げを実施

円安の進行に伴う原材料やエネルギー価格の高騰、さらに輸送コストの増大などの影響を受けて、建材・設備メーカーの値上げが相次いでいる。特に原材料の価格上昇は、メーカーの収益構造を根底から揺さぶっており、断続的な製品価格の改定が行われる事態となっている。

LIXILは、2026年春に大規模な改定を行う。水栓金具(平均15%)の値上げ幅が特に大きく、キッチンやトイレも平均6%程度、住宅用サッシ・ドアや金属サイディング、エクステリアなどが平均5%程度上昇する。

YKK APは、住宅用商品・エクステリア商品・金属外装材・ビル用商品について、2026年5月1日受注分から、価格を約5~10%上げる。エクステリア商品・金属外装材は2025年4月以来の値上げとなる。

その他、三協立山は、2025年10月からカーポート、フェンスなどのエクステリア主力商品の価格を10~15%アップ。TOTOは、2025年10月に衛生陶器を約5%、ウォシュレットを約3%、水栓金具を約2%、ユニットバス・システムバスを約3%上げた。パナソニックは、2026年1月から配線器具、プレーカなどを約10~50%上げた。ノーリツは、2026年3月からガスふろかまを約13%、4月から石油給湯器を約2%~13%上げる。

2026年も円安基調は続くと思われる。背景には、日銀の慎重な利上げ姿勢、財政規律への懸念、対米投資85兆円、AI関連投資によるドル需要増加などの様々な要因があるとされる。いずれにせよメーカーにとって厳しい市場環境は続きそうだ。

TOPIC | 2 | ヤマダホールディングスがトクラスを子会社化

ヤマダホールディングスがトクラスの株式を取得、子会社化する。トクラスは、UDSコーポレート・メザニン3号投資事業有限責任組合が保有するトクラスA種優先株式のすべてをヤマダホールディングスに譲渡することを承認。ヤマダホールディングスは同株式を取得後、普通株式に転換する予定。株式譲渡実行・普通株式転換日は2月27日の予定となっている。

トクラスはヤマハの高級木製家具の製造販売にルーツを持ち、ヤマハリビングテックを経て、2013年にトクラスへと社名変更。キッチンを主力に独自のデザイン・設計・生産力を生かした住空間提案を展開している。

ヤマダホールディングスは、トクラスをグループ会社とすることで多面的なシナジーを創出し、住建セグメントの成長をさらに加速させる考えだ。

具体的には、一部商材の共同購買を行うことで仕入れ

価格を低減、傘下で住宅設備機器製造・販売のハウステックによるトクラス工場設備の共同利用や製造委託の実施による工場稼働率の向上や生産効率の改善、双方の販路・販売機会の拡大につなげる。また、主要事業であるヤマダデンキの物流網の活用による物流コストの最適化、配送効率の向上も進める考えだ。

一方、販売面では、ヤマダグループ傘下のハウスメーカーおよびヤマダデンキ内においてトクラス商品を積極的に採用・販売。また、ヤマダデンキ店舗のリフォームコーナーでトクラス製品の展示・提案を行い、エンドユーザーへの認知を拡大、販売を促進する。

ヤマダグループはトクラスをグループ化、多面的なシナジーを創出する



新刊

省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約

創樹社

必携

住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025

住宅・建築に関わる企業、地方自治体、性能評価機関などに向けた必携の書

